神奈川県立博物館発掘調査報告書

第 18 号

大磯丘陵横穴墳墓群 (1)

A REPORT ON THE ARCHAEOLOGICAL EXCAVATIONS
BY KANAGAWA PREFECTURAL MUSEUM

No.18

YOKOANAFUNBO OF OISO (1)

神 奈 川 県 立 博 物 館
KANAGAWA PREFECTURAL MUSEUM

Nakaku Yokohama Japan
1 9 8 9

神奈川県立博物館発掘調査報告書第18号

大磯丘陵横穴墳墓群（1）目次

本　文　Ⅰ．大磯丘陵横穴墳墓群の調査について

調査目的 …… 1

Ⅱ．遺跡群の概況

地理的位置・環境 …… 2

分布状態 …… 2

Ⅲ．大磯町所在横穴群個別記録

0．後谷原北横穴墳墓群 …… 3

表　大磯町横穴墳墓群地名表（昭和39年当時）――比較資料―― …… 6

図　第1図．旧大磯地区内分布図 …… 9

第2図．旧国府地区内分布図（1）――北部―― …… 10

第3図．旧国府地区内分布図（2）――南部―― …… 11

第4図．大磯町横穴墳墓群分布地域仮区分図 …… 10

第5図．後谷原北横穴墳墓実測図（1） …… 12

第6図．後谷原北横穴墳墓実測図（2） …… 13

調査主催 …… 神奈川県立博物館

調査担当 …… 専門学芸員　神澤勇一

主任学芸員　川口徳治朗

協力者 …… 大磯町教育委員会・大磯町郷土資料館・楊谷寺

報告書執筆 …… 専門学芸員　神澤勇一

Ⅰ．大磯丘陵横穴墳墓群の調査について

調査目的

神奈川県下に存在する横穴墳墓群数は約550、全国的比較において集中度が高く、山地を除く全域に分布している。特に大磯丘陵南部、三浦半島東部、相模湾北東部沿岸、多摩丘陵地帯の４個所に著るしい。このうち大磯丘陵には80群、合計500基を超す横穴墳墓が密集、古段階から終末段階までの例を含むと言われ、基数と共に、横穴墳墓の形態変遷過程、編年、群構成、群形成過程等の諸問題解明上の資料的重要性に加え、被葬者の階層、所属集団、隣接地域――伊勢原・秦野・小田原（酒匂川右岸）――に並行的に顕著な存在を示す群集墳、地域が古代における相模国餘綾郡にかかる等の諸点においても注目すべき存在である。

大磯丘陵の横穴墳墓は、既に明治時代前半に発掘された例があり、昭和時代前半まで単発的調査や発見をみたが、今日的認識に基ずく調査研究の開始は、昭和20年代後半～30年代、赤星直忠博士・鈴木昇・池田彦三郎３氏が大磯町で行なった、分布調査と一部の発掘調査以後と言えよう。それは主に横穴墳墓群の所在、概数記録および開口例略測の範囲に止まるものの、分布状態その他を初めて明らかにした点、研究の基礎をなす優れた業績である。しかし同地域では以後、目立った研究がない。一方、近年に至り横穴墳墓研究の重要性が認識され、各地方・地域単位の研究が急速な進行をみるに及び、大磯丘陵地域横穴墳墓群につき詳細を把握する必要が生じた。そこで本館では、地域博物館として研究対象の一つに加え実態把握調査の実施を計画、群単位で1.所在地（再確認・消滅例追跡を含む）、2.群構成、3.墳墓形式・構造、4.時期、5.出土遺物等の記録集成を長期計画で、段階的に進めることとなった。

第１段階として、当面、分布調査と計測可能な横穴墳墓の実測記録による基礎資料蓄積を目標に定めた。横穴墳墓群の立地的特性もあり、諸記録の収集整理を理想的に進め難いうえ、一期間内の集中調査が不可能な場合も予想されるため、複数の対象を並行調査し、一応終了した例から順次結果を報告する形にしている。対象地域は最も分布密度が高く例数の多い大磯町を選定。昭和60年度に開始、大磯町教育委員会・大磯郷土資料館と提携しつつ継続中である。

現在までに着手した遺跡は、1.庄ヶ久保横穴墳墓群、2.堂後下横穴墳墓群、3.清水北横穴墳墓群、4.楊谷寺谷戸横穴墳墓群、計４個所である〈第１図―**A・D・E**、第２図―**B・C**〉。

本報告書では横穴墳墓群調査結果報告に先立ち、大磯丘陵の環境、地域的特徴とともに、記録照合上の必要もあり過去における調査研究結果について、簡単に述べておきたい。また昭和43年に同じ目的で、試験的に大磯町後谷原北横穴墳墓群を発掘調査した。結果は報告済みであるが、調査後20年以上を経過し以後の研究結果に照らすと、多少補足説明を要する点が生じたため、今回の調査との関係もあり、このさい一部再録、要点のみ補うことにした。

遺跡の名称については、未だ「横穴」「横穴墓」「横穴古墳」「横穴式墳墓」など一定しないが、本報告書では引用個所を除き、暫定的に「横穴墳墓」を使用する。

II．遺跡群の概要

地理的位置・環境

大磯丘陵は相模湾北部沿岸に位置する。東西約15km、南北約10km。東端を相模川沖積地、西端を酒匂川沖積地、北端を秦野盆地に接し、南端は裾沿いに伸びた狭い平地を隔てて海岸線に迫っている。行政区劃は平塚・秦野・小田原３市の一部と大磯・二宮・中井・大井４町にわたる。南半と北半とでは地形にやや差異があり、全般に北半では起伏が緩やかで所々に高所や盆地状低地をみる。それに対し南半は起伏に富み傾斜も著しい。縁辺は南向きに開口した狭長な谷と大小の支谷の発達で複雑な地形を呈し、大磯町東小磯・大磯町西小磯・二宮町山西・小田原市国府津付近で、尾根が一部海岸線まで突出する。平地は血洗川、葛川、押切川などの川口に多少認められるにすぎない。酒匂川に面した西縁は断崖状の急斜面をなしており、小さな谷が点在、その状態が北半まで続いている。

大磯町はこの丘陵の東南隅に位置し、町域が東西約８km、南北約４km、その４分の３が丘陵地で、北端は高麗山、浅間山およびその西に連なる尾根までである。また西小磯の城山付近には、前述の海岸線まで突出した尾根が町域を二分する形で延び、ここを境に地形に差がある。

本調査においては、町域が東西に伸びかつ地形も幾分異なるため、作業の都合上、西小磯に突出した尾根をもって、町域を旧大磯地区（東）と旧国府地区（西）に、仮に区分した。

分布状態（大磯町横穴墳墓群地名表・第１図～第３図）

横穴墳墓群は大磯丘陵全域で現在約120個所（確認例概数）知られるが、約100個所が南半縁辺部に存在、特に東半に著しい。丘陵東南部の大磯町には71個所（全域存在例の約60％）が集中、ほかには二宮町押切川の河口付近、小田原市国府津付近に少数認められる程度で、それ以外は点在的に分布する状態である。この偏在性は、本地域における横穴墳墓群の性格と在り方を理解する上で、きわめて重視すべき点と言えよう。

横穴墳墓群については改めて指摘するまでもなく、未発見例の存在と地域内調査密度の濃淡に加え、未記録のままの消滅例・埋没による所在不明・誤認等による記録重複などで数的誤差を免れ難い。この丘陵でも現時点における確実な群数と墳墓数は把握困難である。しかし、それを考慮に入れても、こうした偏在的分布傾向は疑えず、将来とも基本的変化はなかろう。

なお今回の調査は、現存横穴墳墓群と各横穴墳墓例の確認記録に止まらず、本来の状態の把握することを目指し消滅例も可能な限り追跡調査して、記録する方針とした。

大磯町に存在する横穴墳墓群は71個所。第１図～第３図に分布状態を示した。ただし、図・地名表収録遺跡数は上に述べた意図で、まず過去の調査を整理するために作成した関係上、現在の把握数より若干少く、消滅例も区別していない。補正はおって別稿で示すことにする。

分布数地区別は旧大磯地区49個所、旧国府地区22個所である。旧大磯地区に約３分の２が存在し、第１図から判るように、浅間山の南に長く伸びる尾根の東側に24個所が密集している。

対照的に旧国府地区では、国府新宿の谷合に18個所が近接存在する以外、散慢な分布を示す。両地区間の分布密度の差は、旧国府地区について従来やや調査が不十分であったことにもよるであろう。しかしながら地形を比較した場合、横穴墳墓設営に好適な急斜面をもつ谷が旧大磯地区に非常に発達しており、これが基本的原因と判断できる。なお旧大磯地区でも、分布記録がない高麗山南麓や東小磯付近の谷奥には、地形的に未だ相当数埋没が予想される。旧国府地区については詳細に調査すれば数が増加すると思われるが、その場合でも適地の多少という点で、旧大磯地区中心の分布状態は変わるまい。図の表示は十分な調査結果を反映したものでなく、従ってこれを直ちに諸問題論議の基礎資料にするのは危険である。

立地は、大磯町の場合、大多数は奥深い谷の支谷であって、急斜面をなす丘陵側面中位以下にある。一般に十基前後から数十基が集合的に築造されており、ほぼ支谷ごとに横穴墳墓群が形成されていると言える程であり、一支谷に複数群が存在する場合も認められる。したがって横穴墳墓群で主谷奥半部の支谷に築造した例においては、主谷末端から0.5～1km奥、標高50～70m、谷底との比高10～20mの位置が多い。このような横穴墳墓群のあり方は、既に再三説かれている，被葬者と関係する集落の把握とともに，各支谷に存在する群相互間の関係等を解明する上に注目されるべきであるが，そのほか時期による築造場所の変化や実際の葬送行為に必要な墓道、祭式、施設の有無確認等でも重要となろう。一方、これらの点は、大磯町内に後期古墳が（特に群集墳の形で）ほとんど存在しない事実と併せて考慮検討せねばならない。

Ⅲ．大磯町所在横穴墳墓群個別記録

0．後谷原北横穴墳墓群　（第1図――A，第4図，第5図）

後谷原北横穴墳墓群は昭和43年に、当時存在を確認し得た12基中5基を、発掘調査した。その結果は、既に「神奈川県立博物館発掘調査報告書　第3号」で報告したので、同号を参照されたい。本稿では今回の調査との関連上再録するものであり、遺構実測図・出土遺物実測図の提示ならびに横穴墳墓群の構成と各墳墓の形状・構造につき、若干補足を加えるに止める。

したがって記述形式が次号以下のそれと多少異なっている。

1．所在区分＝旧大磯地区（第1図A）．

2．所 在 地＝大磯町大磯小字後谷原254番地。

3．存在基数＝12基（確認）以上。2基，7基，3基が、高低ほぼ3列をなす形で存在。

4．発掘基数＝5基。U1号（上位），M1号・M2号・M3号・M4号（中位）。

5．出土遺物＝(1) U1号……須恵器坏1（第5図B）．

(2) M3号……青銅製帯金具破片4（第5図C～F）．

(3) M4号……須恵器長頸瓶1（第5図A）．須恵器長頸瓶破片1．土師式土器坏破片1．

補足要旨

本横穴墳墓群を構成する諸例は、形式上，すべて末期に属する。当初、多少形態的差異が認められ、かなりの年代差を想定したが、現在の研究に照らすと甚だしい時間差は考え難い。

発掘調査した５基は、構築予定部分の斜面に50°前後の斜面を削り出した部分へ前庭部・羨道・玄室が掘削されている。未発掘例にも、その形跡が認められた。

また発掘例では羨門前面に前庭部があり、Ｕ１号墳墓を除き、羨門と前庭部の間を低い段で劃してある。前庭部は幅に比べて短かい。類似した形を示す前庭部は、現在、楊谷寺谷戸横穴墳墓群（第1図Ｅ）．下田横穴墳墓群の一部その他に例が知られてきた。羨門両側壁面では、羨門のなかば付近に鈍い稜があり、それ以下は垂直に近い。この稜は形状よりみて前庭部掘削により生じたことは誤りないが、羨道・玄室掘削との前後関係は、（排水溝・方形盤上突出部等細部施設と最終的整形は除外して）不明である。奥行に比べ幅が広い点、単に祭祀供献の用途のみならず、羨道・玄室掘削の足場、羨門閉塞設備構築の機能、目的を兼ねたものと考えられる。前庭部末端が直ちに丘腹の急斜面に接する地形条件上、その可能性は疑えない。同様に地形的条件に照らせば、各横穴墳墓前部に存在していた幅２～３ｍの不規則的平坦面は、墓道であった可能性が多分に考えられる。

最も問題を残す点は羨門閉塞である。本横穴墳墓群のみならず旧大磯地区・旧国府地区の横穴墳墓群は、発見時、土砂に埋没した以外は既に開口状態にあり、明確な閉塞の施設または痕跡が残っていない。従来は一般に、後世の侵入者による閉塞施設の破壊または除去の結果と説かれているが、不自然さが目立つ。羨門閉塞方法としては(1)大型河原石か岩塊の積上げ、(2)切石積み上げ、(3)塊状ローム土積み上げ、(4)前記３手法の併用があり、(5)として厚板材による閉塞が推定される。しかし、(1)，(2)，(4)の場合、その一部が残存ないし付近に散乱状態で残存する筈であるが、,横穴墳墓の密集にもかかわらず、事例、形跡が皆無に等しい。墳墓という性格上、羨門の開放は他地域諸例からも考え難く、したがって土砂または厚板材による閉塞法の存在を推定せざるを得ないであろう。至近距離に河原石を求め難い大磯地域の地理的条件下にあっては、石塊使用は一般に困難と言える。さらに横穴墳墓群の立地と照合した場合、重量のある石塊を多量に搬入することが可能か否かも問題となる。以上の諸点から、閉塞は土砂または厚板材で行なわれた可能性がきわめて多いと考えられよう。今後の調査においては、こうした羨門閉塞手法の検討が必要とされる。

なお、発掘調査のさいＭ４号墳墓では、羨門部、左側の削り出された斜面下端と前庭部が接する付近に少数の岩塊が存在した。これらは後世の破壊、除去の残部ではなく、土砂または厚板材による封鎖施設の補強に使用された疑いが濃い。Ｍ４号墳墓の前庭部羨門両側に存在した方形盤状の造り出しは、発掘調査時点以後、事例の増加で類似設備、前庭部における遺物の出土状態が明瞭になってきた現在では、閉塞施設の一部ではなく供献用設備であったとも考えられることを付記する。

関係文献

(1)　中川成夫　「相模大磯町愛宕山横穴調査報告」　史苑　第16巻第1号　立教大学史学研究室　昭和30（1955）年.

(2)　大磯町教育委員会（編）「大磯町文化史」　大磯町　昭和31（1956）年.

(3)　赤星直忠　「神奈川県大磯町の横穴」　大磯町文化財調査報告　第一冊　大磯町教育委員会　昭和39（1964）年.

(4)　神奈川県数育委員会　（編）「神奈川県埋蔵文化財遺跡地図」　神奈川県教育委員会　昭和43（1968）年.

(5)　神澤勇一　「後谷原北横穴群」　神奈川県立博物館発掘調査報告書　第3号　神奈川県立博物館　昭和44（1969）年.

(6)　赤星直忠　「神奈川県における横穴古墳の線刻壁画」　考古学ジャーナル　No. 48　ニューサイエンス社　昭和45（1970）年.

(7)　赤星直忠　「穴の考古学」　（単行本）　学生社　昭和45（1970）年.

(8)　石野　瑛　「大磯町・旧三井家別邸内横穴群調査記」　考古集録　第2巻　名著出版　昭和48（1973）年.

(9)　石野　瑛　「国府村三井家城山荘と邸内横穴群調査後記」　考古集録　第3巻　名著出版　昭和48（1973）年.

(10)　赤星直忠　「横穴墳研究の意義」　考古学ジャーナル　No.110　昭和50（1975）年.

(11)　持田友宏　「関東（1）――武蔵――」　考古学ジャーナル　No.110　昭和50（1975）年.

(12)　赤星直忠・岡本勇　「神奈川県史　資料編」20　――考古資料――　神奈川県　昭和54（1979）年.

(13)　明石　新　「相模川流域の横穴墓」　特別展図録　平塚市博物館　昭和60（1985）年.

(14)　鈴木一男　「城山遺跡　II」　大磯町文化財調査報告書　第26集　昭和60（1985）年.

(15)　鈴木一男・井辺一徳・矢納健志　「愛宕山下横穴墓群」　大磯町文化財調査報告書　第28集　昭和62（1987）年.

※ 以上は主要関係文献である。各横穴墳墓群に関する個々の文献は、その都度提示する。

※ 上記文献のほか、未刊行の関係記録（刊行予定なし）に次の資料がある。

鈴木昇・池田彦三郎　「大磯町遺跡遺跡台帳」（現，大磯町郷土資料館保管）.

大磯町横穴墳墓群地名表（昭和39年当時）——比較資料——

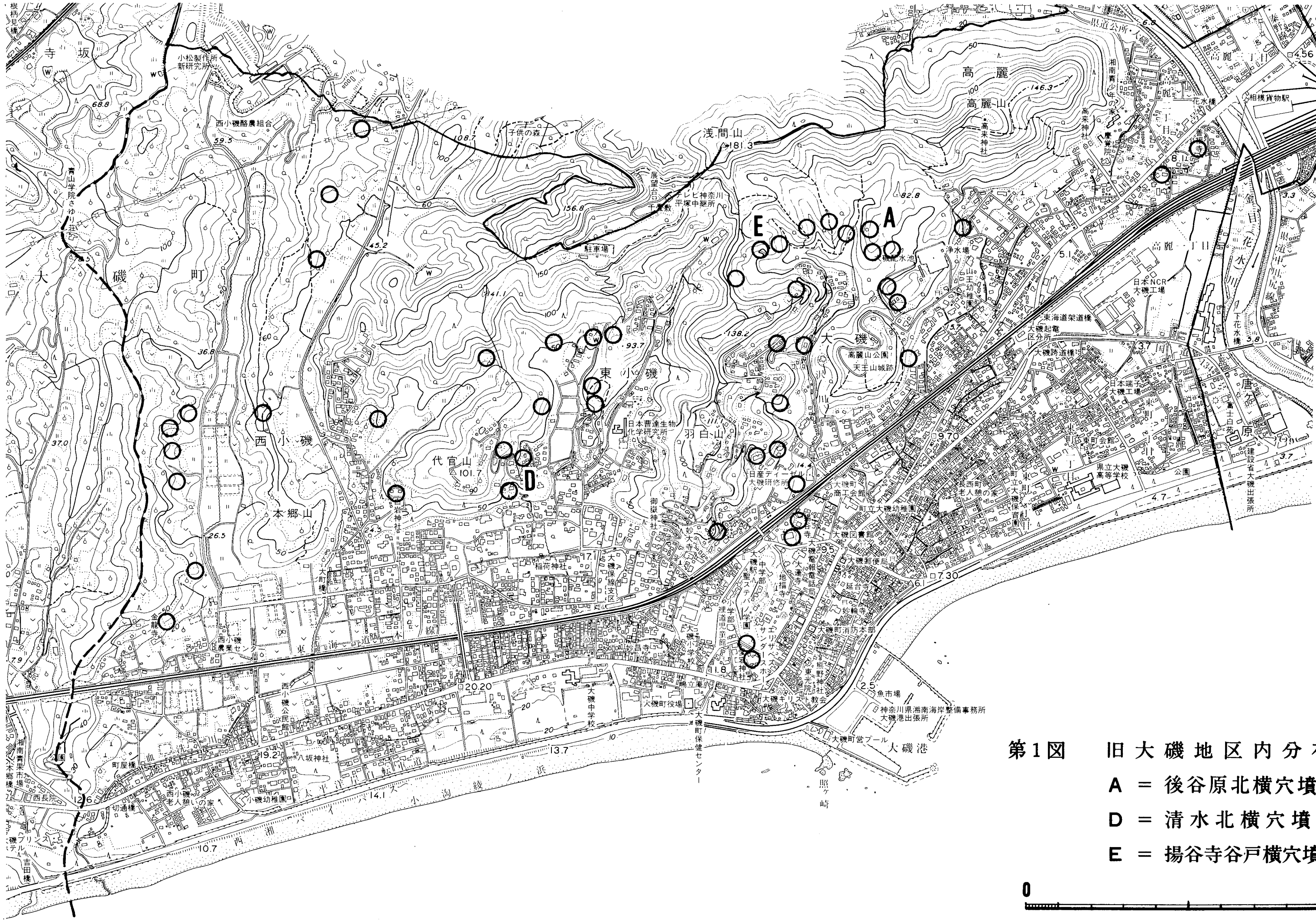
（注）＋……記録数以上存在の可能性があるもの
（ ）……昭和31(1956)年当時存在数
＝……別称

番号・	遺跡名	所在地	基数（前基数）		摘要
	旧大磯地区	〈第１図参照〉			
1・	善福寺横穴群	高麗，善福寺境内.	12		
2・	高麗横穴群	高麗，	0	(10＋)	＝瀬戸邸内横穴群.
3・	滝之沢横穴群	高麗，滝之沢.	7		直刀・玉類・馬具.
4・	前谷原横穴群	大磯，前谷原.	8		＝火葬場南横穴群.
5・	火葬場西横穴群	大磯，後谷原.	2	(３＋)	須恵器.
6・	後谷原南横穴群	大磯，後谷原.	6	(９)	須恵器・直刀.
7・	後谷原北横穴群	大磯，後谷原.	12＋		〈第１図A〉.
8・	南井戸窪横突群	大磯，南井戸窪.	6		
9・	石切場東横穴群	大磯，南井戸窪.	6		
10・	石切場横穴群	大磯，南井戸窪.	11＋		
11・	楊谷寺谷戸東横穴群	大磯，楊谷寺谷戸.	1＋		
12・	楊谷寺谷戸横穴群	大磯，楊谷寺谷戸.	27		後世内部改造例あり．県史跡.
13・	楊谷寺谷戸西横穴群	大磯，楊谷寺谷戸.	11		〈第１図E〉
14・	紅葉山横穴群	大磯，紅葉山.	4＋		
15・	宝珠山横穴群	大磯，漆ケ窪.	3		
16・	漆ケ窪横穴群	大磯，漆ケ窪.	1＋？		
17・	坂田山北横穴群	大磯，坂田山.	7	(８＋)	＝酒井邸内横穴群.
18・	坂田山南横穴群	大磯，坂田山.	3		＝早川邸内横穴群.
19・	坂田山横穴群	大磯，坂田山.	11	(15)	（伝）遺物.
20・	王城山横穴群	大磯，王城山.	13＋	(14)	
21・	釜口下横穴群	大磯，釜口下.	3		須恵器.
22・	大磯駅東横穴群	大磯，神明町.	0	(２)	
23・	大磯駅前横穴群	大磯，神明町.	0	(５)	須恵器・直刀
24・	招仙閣横穴群	大磯，坂田山.	4		
25・	愛宕山横穴群	大磯，愛宕山.	7		須恵器.
26・	愛宕山下横穴群	大磯，愛宕山.	9	(10)	
27・	南中尾横穴群	東小磯，南中尾.	10		
28・	北中尾（一）横穴群	東小磯，北中尾.	0	(５)	
29・	北中尾（二）横穴群	東小磯，北中尾.	7＋？		
30・	善兵衛池横穴群	東小磯，用佐田.	4		
31・	清水北横穴群	東小磯，清水.	14		土師器・須恵器・鉄鏃．県史
32・	清水南横穴群	東小磯，清水.	0	(７)	跡．〈第１図D〉
33・	清水南上横穴群	東小磯，清水.	0	(３)	
34・	立野横穴群	東小磯，立野.	13		(伝)土師器・須恵器・鉄製品.

35・代官山横穴群	西小磯，代官山.	0	(10)	
36・穴虫横穴群	西小磯，穴虫.	2		(伝)鎌状鉄製品.
37・谷戸口横穴群	西小磯，谷戸口.	3		
38・谷戸横穴群	西小磯，谷口.	2＋		
39・高平穴口横穴群	西小磯，高平.	16		＝石田原横穴群.
40・高平横穴群	西小磯，高平.	2	(3)	
41・本郷山横穴群	西小磯，本郷山.	20		須恵器.
42・金久保北横穴群	西小磯，山ケ谷.	4	(6)	
43・金久保南横穴群	西小磯，金久保.	18		後世改造例あり.
44・新楽寺南横穴群	西小磯，金久保.	9		
45・新楽寺南下横穴群	西小磯，金久保.	1		
46・辻ノ端東横穴群	西小磯，辻ノ端.	5＋		
47・辻ノ端横穴群	西小磯，辻ノ端.	7	(10)	後世改造例あり.
48・城山横穴群	西小磯，王子窪.	8	(16)	＝旧三井邸内横穴群. 須恵器
49・切通横穴群	西小磯，切通.	7		鉄製品。

旧国府地区　〈第２図・第３図参照〉

50・堂後下横穴群	国府本郷，堂後下.	13	県史跡. 〈第３図C〉.
51・庄ケ久保横穴群	国府本郷，庄ケ久保.	9	県史跡. 〈第３図B〉.
52・下田横穴群	虫窪，下田.	16＋	須恵器・玉類・直刀・倣製鏡.
53・穴寺横穴群	虫窪，下田.	23	後世改造例あり. 県史跡.
54・ごみ焼場横穴群	虫窪，下田.	3＋	
55・ぼったり横穴群	虫窪，ぼったり.	1	
56・権現田横穴群	国府新宿，権現田.	13	金銅環・直刀・刀子.
57・がまん谷戸東横穴群	国府新宿，我慢谷.	6	
58・がまん谷戸西横穴群	国府新宿，我慢谷.	8	
59・権現山東横穴群	国府新宿，権現山.	1＋	
60・権現山横穴群	国府新宿，権現山.	1	
61・東奥沢横穴群	国府新宿，東奥沢.	15	
62・大谷入り横穴群	国府新宿，大谷入り.	6＋	
63・西奥沢横穴群第一群	国府新宿，西奥沢.	6	
64・西奥沢横穴群第二群	国府新宿，西奥沢.	未確認＋？	
65・西奥沢横穴群第三群	国府新宿，西奥沢.	4	
66・西奥沢横穴群第四群	国府新宿，西奥沢.	4	
67・西奥沢横穴群第五群	国府新宿，西奥沢.	2	
68・西奥沢横穴群第六群	国府新宿，西奥沢.	7	
69・たれこ谷戸東横穴群	虫窪．たれこ谷戸.	14	
70・黒岩横穴群	国岩.	2	
71・出岩横穴群	虫窪，出岩.	1	



第1図　旧大磯地区内分布図

A ＝ 後谷原北横穴墳墓群

D ＝ 清水北横穴墳墓群

E ＝ 揚谷寺谷戸横穴墳墓群

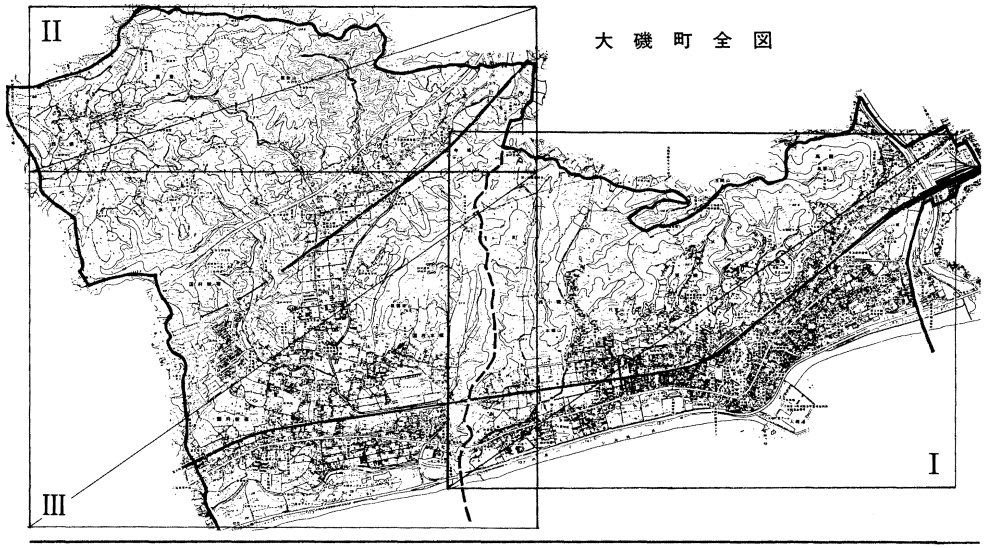
第4図

大磯町域内横穴墳墓分布地域仮区分図

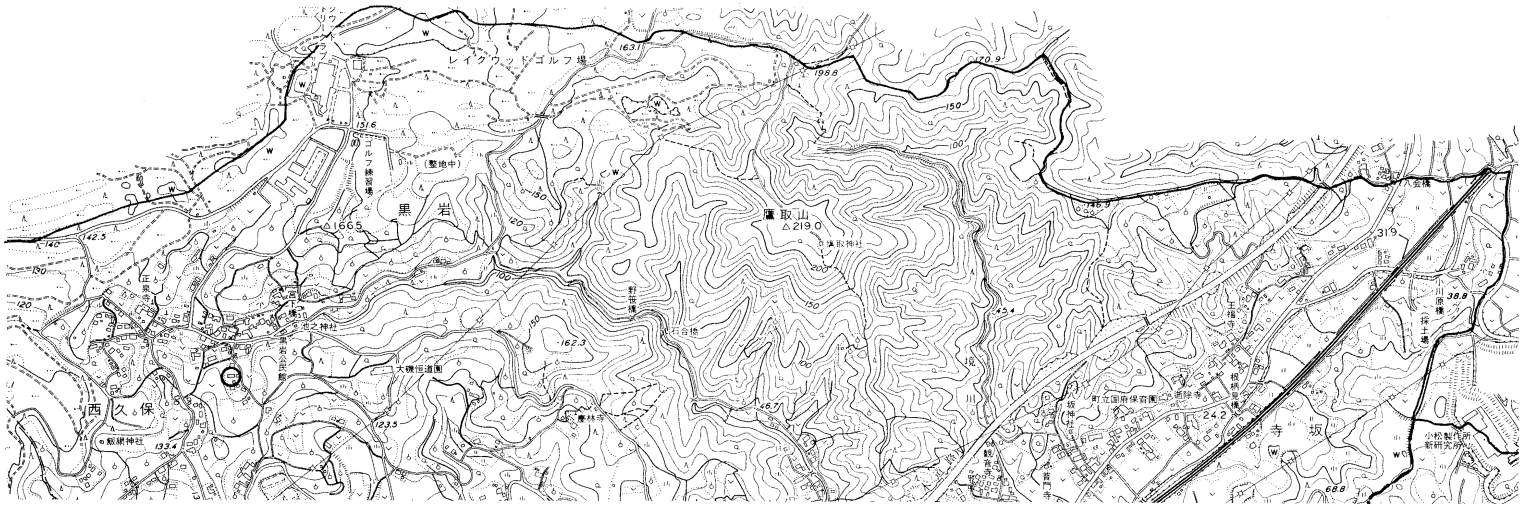
I ＝ 旧大磯地区　　(第1図)

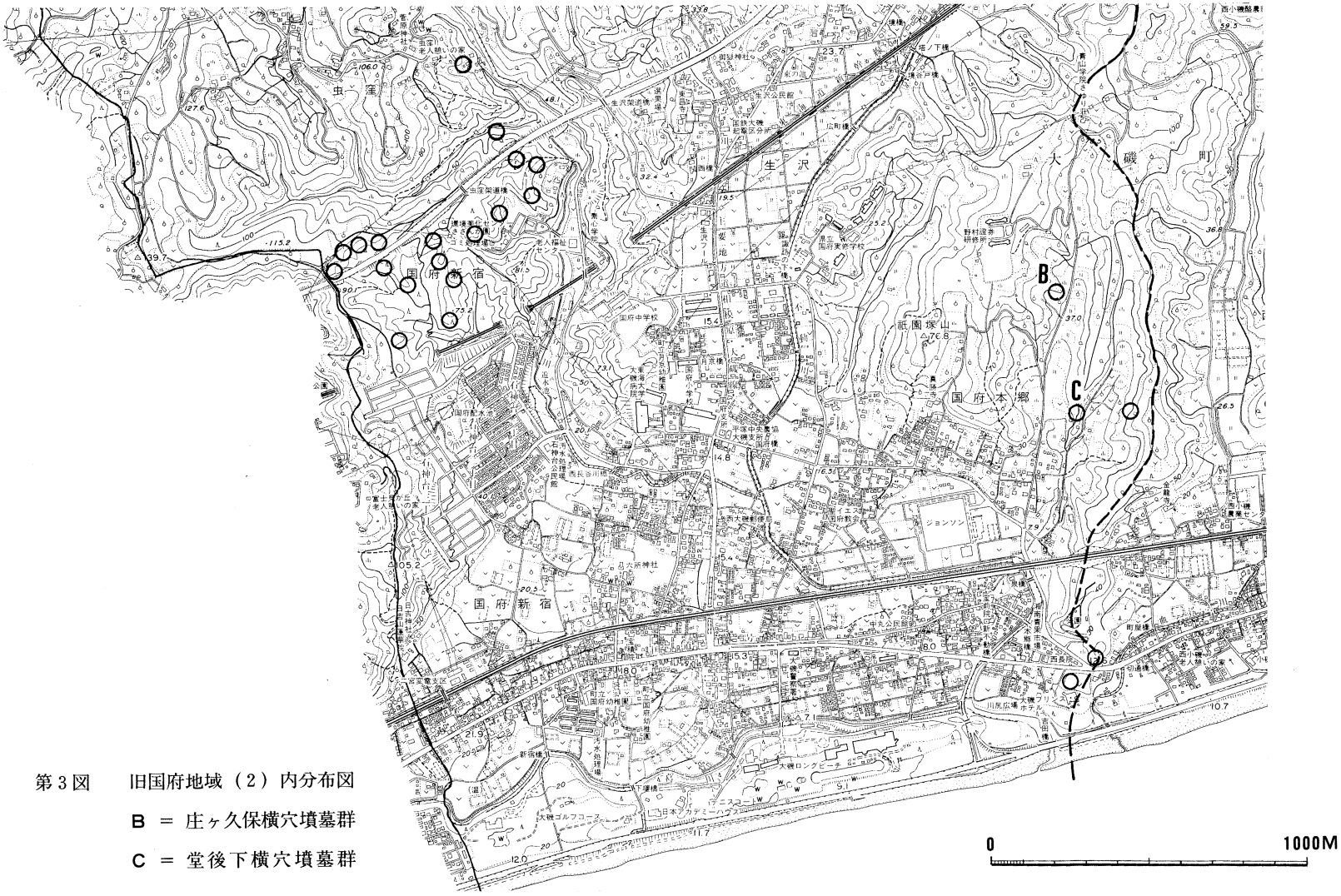
II ＝ 旧国府地区(1)――北部――(第2図)

III ＝ 旧国府地区(2)――南部――(第3図)



第2図　旧国府地域(1)内分布図

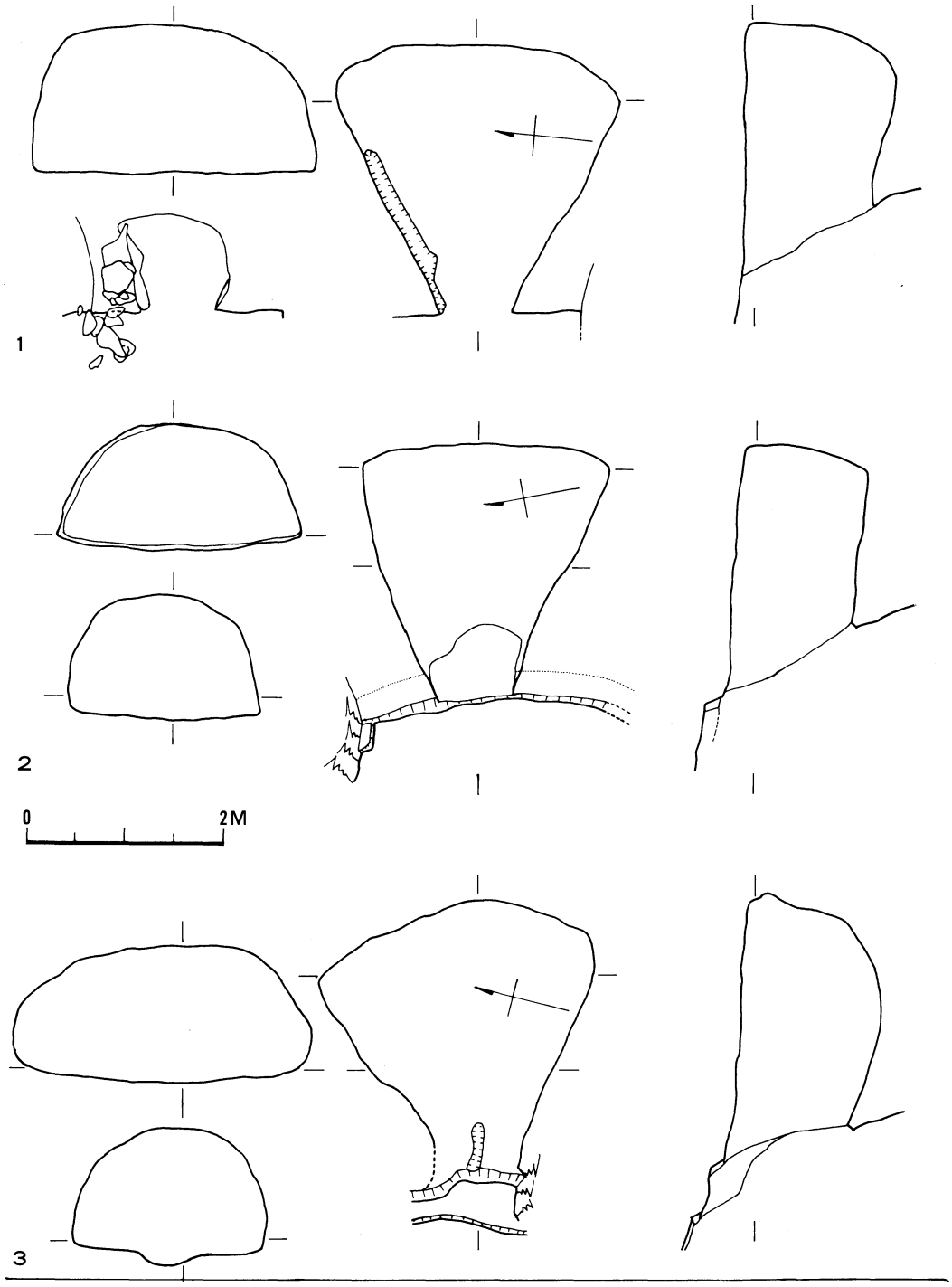




第３図　　旧国府地域（２）内分布図

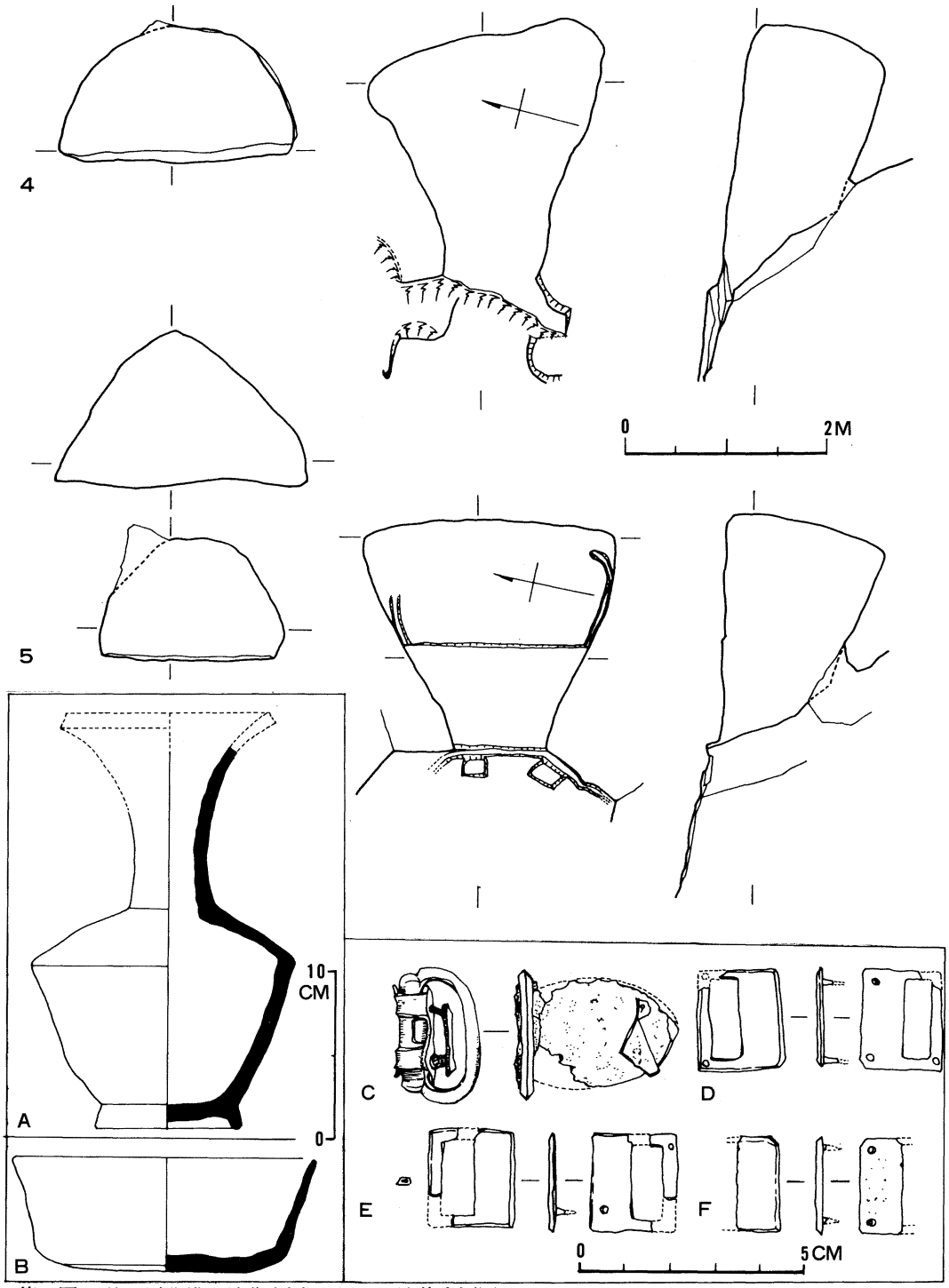
Ｂ ＝ 庄ヶ久保横穴墳墓群

Ｃ ＝ 堂後下横穴墳墓群



第５図　後谷原北横穴墳墓実測図 (1)

１ ＝ Ｕ１号横穴　２ ＝ Ｍ１号横穴　３ ＝ Ｍ２号横穴



第６図　後谷原北横穴墳墓実測図 (2) ・ 遺物実測図
４ ＝ Ｍ３号横穴　　５ ＝ Ｍ４号横穴
Ａ ＝ 須恵器長頸瓶（Ｍ４号出土）　　Ｂ ＝ 須恵器 坏（Ｕ１出土）
Ｃ～Ｆ ＝ 金具（Ｍ３号出土）

神奈川県立博物館発掘調査報告書
第 18 号

平成1年3月30日 印 刷
平成1年3月31日 発 行

編集兼発行者 神 奈 川 県 立 博 物 館
館長 加 藤 整 爾
横浜市中区南仲通り5－60

印 刷 所 東 邦 印 刷 株 式 会 社
横浜市南区高根町3－18